

# 中学歴史プリント（過去問類似）

## 幕末・開国

名前

得点

/7

**問1** 1858年、江戸幕府の大老である井伊直弼が、朝廷の許可（勅許）を得ないままアメリカと結んだ条約について、その内容と性質を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2025年 千葉公立入試 類似）

1. アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。
2. 下田と箱館の2港を開港し、アメリカ船に食料や石炭を供給することを約束した。
3. 日本が清の独立を承認し、領事裁判権を相互に認め合う対等な内容であった。
4. イギリスとの軍事同盟を結び、ロシアの南下政策に対抗することを目的とした。

**問2** 19世紀のイギリスにおいて、産業革命の進展にともない発生した社会状況の説明として、背景や因果関係が最も正しいものはどれですか。（2025年 宮城県公立入試 類似）

1. 工場の機械化により生産力は飛躍的に向上したが、資本家と労働者の間に大きな格差が生じ、不衛生な住環境や児童労働が深刻な問題となった。
2. ルネサンスによる人間中心の考え方が普及した結果、労働者の権利が法律で即座に保護され、産業革命の初期から安定した生活が送られた。
3. 世界恐慌の影響で失業者が急増したため、労働者は政府主導の公共事業に従事することで、労働組合を解散して国家の近代化に協力した。
4. 宗教改革によって教会の権威が低下したことで、労働者は伝統的な生活習慣を捨て、都市部から農村部へと大規模な移住を開始した。

**問3** 19世紀半ば、ロシアが南下政策を進め日本近海への接触を強めていた時期に、アメリカが日本に対して条約締結を強く求めてきた背景と、その結果として結ばれた日米和親条約の性質を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 岡山公立入試 類似）

1. アメリカは自国の捕鯨船の補給地を確保するなどの目的で開国を迫り、日本は軍事的衝突を避けるために、まずは通商（貿易）を含まない形で開港に応じた。
2. フランスがアジアでの勢力を拡大する中で、アメリカは対抗して自由貿易を求めるために、最初から関税自主権を認めない不平等な通商条約を結ばせた。
3. イギリスがアヘン戦争で清を破ったことを受け、日本はイギリスからの攻撃を恐れて、アメリカを仲介役として友好関係を築くための軍事同盟を結んだ。
4. アメリカはキリスト教の布教を主な目的として来航し、日本は幕府の権威を維持するために、布教を認める代わりに貿易を制限する和親条約を結んだ。

**問4** 大老の井伊直弼が「安政の大獄」によって、尊王攘夷派の武士や大名らを厳しく処罰した背景や目的として最も適切な説明はどれですか。（2020年 愛媛公立入試 類似）

1. 日米修好通商条約の無勅許調印や将軍継嗣問題で幕府と対立した勢力を排除し、幕府の独裁的な権威を立て直そうとした。
2. 戊辰戦争において旧幕府軍側に味方した地方藩主を処刑することで、明治新政府の正当性を全国に示そうとした。
3. 生麦事件によってイギリスとの外交関係が悪化したため、攘夷を主張する過激な浪士たちを取り締まって国際的な信用を得ようとした。
4. 日米和親条約の締結に伴い、開港に反対して一揆を起こした農民や町人を鎮圧し、国内の治安を維持しようとした。

**問5** 幕末の日本において、外国船への対応や開国をめぐる政治情勢の変化を示す3つの出来事、「異国船打払令」「日米和親条約」「桜田門外の変」を、年代の古い順に正しく並べたものを選びなさい。（2022年 新潟県公立入試 類似）

1. 異国船打払令 → 日米和親条約 → 桜田門外の変
2. 異国船打払令 → 桜田門外の変 → 日米和親条約
3. 日米和親条約 → 異国船打払令 → 桜田門外の変
4. 日米和親条約 → 桜田門外の変 → 異国船打払令

**問6** 1854年にペリーと結んだ日米和親条約から、1858年に結ばれた条約に至るまでの歴史的な経緯を説明したものとして適切なものはどれですか。（2020年 香川公立入試 類似）

1. アメリカ総領事のハリスが下田に着任し、清（中国）がアロー戦争で敗れた状況などを伝えて、通商条約の締結を強く求めた。
2. ペリーが再び浦賀に来航し、軍事力を背景に貿易を開始するための具体的な港の選定と関税率の決定を迫った。
3. ロシアのプチャーチンが長崎に来航し、アメリカよりも先に貿易の権利を得るために大規模な通商交渉を江戸幕府に申し入れた。
4. 岩倉具視が全権大使としてアメリカへ渡り、貿易の拡大を条件として、それまでの不平等な条項をすべて撤廃することに成功した。

**問7** 幕末の長州藩は、当初は外国船を砲撃するなどの過激な行動をとっていましたが、下関戦争での敗北を経て方針を転換しました。その後の、薩摩藩との関係から政権の返上に至るまでの歴史的な流れとして、最も適切なものはどれか。（2022年 香川公立入試 類似）

1. 坂本龍馬らの仲介で薩摩藩と密かに協力関係を築き、倒幕の機運が高まる中で、徳川慶喜が政権を天皇に返上した。
2. 薩摩藩と協力して外国勢力を完全に排除する攘夷を再開し、その功績を認められた幕府が自主的に政権を返上した。
3. 幕府軍の長州征伐に屈した長州藩が、幕府を支えるために薩摩藩と合流し、天皇を中心とした公武合体を推進した。
4. 開国を求める外国勢力と結んだ長州藩が、武力で江戸を占領したため、徳川慶喜は止むを得ず政権を返上した。

## 答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**  
**アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。**
- 日米修好通商条約は、貿易を開始するために結ばれた条約ですが、日本に在留する外国人が罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権（治外法権）」を認め、輸入品の関税率を自国で決める「関税自主権」が日本にないなど、日本にとって不利な不平等条約でした。井伊直弼が勅許を得ずに調印したことは、後の尊王攘夷運動を激化させる要因となりました。
- 
- 問2** **答え 1**  
**工場の機械化により生産力は飛躍的に向上したが、資本家と労働者の間に大きな格差が生じ、不衛生な住環境や児童労働が深刻な問題となった。**
- 産業革命は人々の生活を便利にしましたが、同時に多くの社会的矛盾を生み出しました。資本家は利益を追求するために労働者を安く長時間働かせ、都市部では急激な人口流入によりスラム化が進むなど、深刻な社会問題が発生しました。こうした状況を解決しようとする動きが、後の社会主義思想や労働立法へとつながっていきます。
- 
- 問3** **答え 1**  
**アメリカは自国の捕鯨船の補給地を確保するなどの目的で開国を迫り、日本は軍事的衝突を避けるために、まずは通商（貿易）を含まない形で開港に応じた。**
- 当時のアメリカは、太平洋での捕鯨や中国との貿易ルートにおける寄港地（燃料や水の補給場所）を必要としていました。一方、日本側は北から南下を続けるロシアの脅威も感じており、強力な軍事力を持つアメリカとの戦争を回避する現実的な判断から、貿易を目的とした「通商条約」ではなく、まずは友好と補給を目的とした「和親条約」を締結しました。この後に結ばれる日米修好通商条約との違いを理解することが重要です。
- 
- 問4** **答え 1**  
**日米修好通商条約の無勅許調印や将軍継嗣問題で幕府と対立した勢力を排除し、幕府の独裁的な権威を立て直そうとした。**
- 安政の大獄は、日米修好通商条約の無勅許調印に対する批判と、13代将軍家定の跡継ぎをめぐる争い（将軍継嗣問題）という2つの大きな対立が背景にあります。井伊直弼は、幕府の方針に従わない前水戸藩主の徳川斉昭や、のちに松下村塾で知られる吉田松陰らを処罰することで、幕府の権力を強引に回復させようと試みました。
- 
- 問5** **答え 1**  
**異国船打払令 → 日米和親条約 → 桜田門外の変**
- 江戸幕府は1825年に外国船を撃退することを命じた「異国船打払令」を出しましたが、その後、1854年にアメリカのペリー来航を受けて「日米和親条約」を締結し、開国へと踏み切りました。さらにその後の1860年、強引に開国を進めた大老の井伊直弼が「桜田門外の変」で暗殺され、幕政の混乱が深まりました。出来事の推移は、鎖国の継続（異国船打払令）から、開国（日米和親条約）、そして開国をめぐる対立（桜田門外の変）という順序になります。
- 
- 問6** **答え 1**  
**アメリカ総領事のハリスが下田に着任し、清（中国）がアロー戦争で敗れた状況などを伝えて、通商条約の締結を強く求めた。**
- 日米和親条約に基づいて下田に着任したハリスは、当時の清がイギリスなどに敗れた情勢を伝え、日本が不利な状況に陥る前にアメリカと条約を結ぶよう圧力をかけました。これが1858年の通商条約締結へとつながる大きな要因となりました。
- 
- 問7** **答え 1**  
**坂本龍馬らの仲介で薩摩藩と密かに協力関係を築き、倒幕の機運が高まる中で、徳川慶喜が政権を天皇に返上した。**
- 長州藩は外国との戦争に敗れたことで、単独での攘夷（外国排除）が不可能であることを悟り、武器の調達などを通じて薩摩藩と接近しました。坂本龍馬らの仲介で1866年に薩長同盟が結ばれると、武力による倒幕の動きが本格化しました。これに対し、江戸幕府の第15代将軍・徳川慶喜は、先手を打って政権を朝廷に返す「大政奉還」を行い、倒幕の口実をなくしつつ、新政府でも主導権を握ろうと試みました。